

群馬県における新たな外来種(コウライギギ)と国内外来種

ヤリタナゴ調査会 齊藤裕也

魚類における外来種問題は特定外来生物に指定されたオオクチバス、コクチバス、ブルギル、チャネルキャットなど魚食性の強いアメリカ原産の肉食魚による捕食で在来の魚が減少する事や、タイリクバラタナゴ、カラドジョウなどの中国原産の雑食性の小型の魚が、国内の在来種と生態的に同位にあって、繁殖能力や生活力が勝ることによって在来種の生活の場を奪って個体数を減少させるなど、多岐にわたっている。今回は新たに群馬県内で確認され始めた外来種と、国内に生息する在来種でありながら本来は関東地方に生息しなかった魚(国内外来種)の最近の記録や今後推定される事態を報告する。

コウライギギ(外来種) 写真1 図1

コウライギギは館林市の茂林寺沼から流れ出て谷田川に合流する茂林寺川で2013年10月14日に採取したのが初記録と推定された(齊藤・相澤2014)。しかし、関根(2009)に掲載されたチャネルキャットの幼魚とされた写真は、体色や尾鰭の叉入の状態、第1背鰭の長さからコウライギギであることが判明した。この個体は2009年11月15日に館林市の城沼で採取されたものであり(関根和伯氏の私信)、齊藤・相澤(2014)が茂林寺川で報告した個体は群馬県では2例目の記録であることが判明した。多々良沼の定置網で2015年に10月にコウライギギを9個体採取した。これは県下で3箇所目となるコウライギギの記録である。本種は群馬県では2009年に館林市の城沼、2013年に茂林寺川、2015年に多々良沼で記録され、今回は初めて複数個体が得られている。また採取された時期が10月から11月と限られ、茂林寺川、多々良沼ともに10cm以下の個体であること、さらに今回は同じような大きさの個体がまとまって採取されるなど、ギギ科魚類の幼魚が小群となる傾向の強い行動を示すなどから、既に谷田川の水系で繁殖していると推定される。なお、荒山ら(2012)によればコウライギギが霞ヶ浦で初めて採取されたのは2008年であり、館林市の城沼で2009年の記録はそれに次ぐ古いものである。本種は在来種のギバチに良く似ており、東毛地区でギバチやギギに類似した魚を採取した場合は疑ってみる必要がある。まだ特定外来生物などには指定されていない。



写真1 コウライギギ



図1 コウライギギの記録

カワムツ(国内外来種) 図2

群馬県内の河川ではカワムツB型が神流町内と上野村の一部の神流川に1997年以降生息することを報告した(斉藤1999)。カワムツは本来、本州中部以西に分布するので関東地方では国内外来種である。近隣の県では栃木県で1973年に那珂川水系の一部に定着していると報告され(環境庁1982a)、埼玉県でも荒川水系の越辺川支流での定着が報告されている(環境庁1982b)。この環境庁の報告に型の区別はないが大竹・州澤(1996)によってA型は埼玉県の荒川水系、B型は茨城県的那珂川水系に生息することが報告されている。その後1994年から2000年にかけて行われた栃木県全域の調査で、カワムツB型は栃木県下の那珂川水系、思川水系、渡良瀬川水系、小貝川水系、久慈川水系の合計87地点で確認されるに及んでいる。カワムツB型は急速に生息域を広げて河川の本・支流の上流域から中流域にかけて広く分布するだけでなく、細流・農業用水路では中心的な魚類となっている事が報告され、すでに栃木県下で確認された淡水魚の内、地点数でドジョウ、アブラハヤ、ウグイに次いで4番目に多い魚種となっている(栃木県2001)。カワムツのA型とB型については細谷ら(2003)によって整理され、A型はヌマムツ、B型はカワムツとなっている。碓氷川水系で2004年10月に富岡市で確認され、その後2005年に西牧川や鮎川、2012年に藤岡付近の神流川、2015年に高崎市の井野川などで確認された。また、渡良瀬川水系でも桐生川や山田川(桐生市)などで確認されている。本種は河川中流域を中心に生息し今後も拡散が予想される。

ムギツク(国内外来種) 図3

斉藤(2010)により太田市東側の不動堀で県内では初めて報告されたが、その数年前より足利付近の渡良瀬川には少なからず生息していることが知られていた。群馬県内の河川では渡良瀬川の中流域から支流に生息するようになっている。琵琶湖・淀川水系より西の河川中流域に生息する魚なので国内外来種である。近隣の県では埼玉県、荒川の一部水域(金沢ほか1997)、栃木県では小山市と足利市の4地点で生息が知られている(栃木県2001)。本種は付着卵を産み、卵を守る習性のある種に託卵することが知られている。スズキ科のオヤニラミ、ハゼ科のドンコなどの卵塊に卵を産むことが知られているが、いずれの種も生息しない群馬県ではどのような種を利用しているのか不明である。

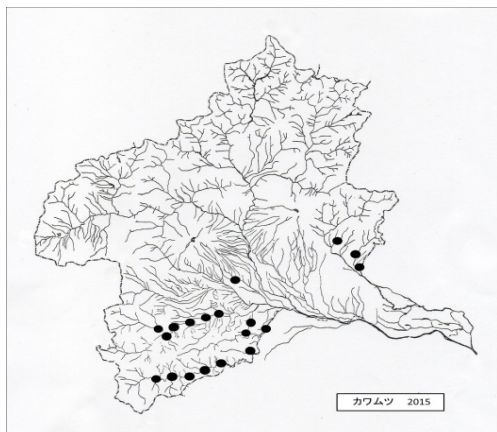


図2 カワムツの記録

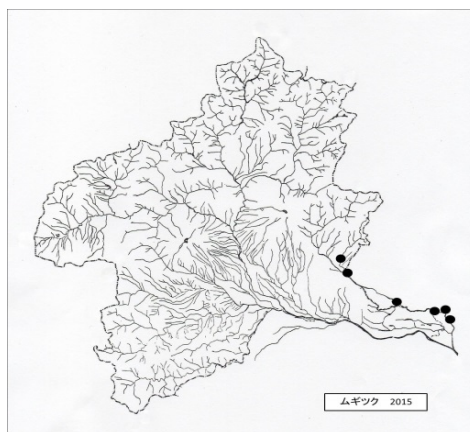


図3 ムギツクの記録